

はくぶつかんネット

第78号



令和5年度 11月～3月号
発行：宜野湾市立博物館

地域との共同企画展 ぎのわんの”^{あざ}字”展

新天地を求めて～屋取集落編 其之一～

（上原・中原・赤道・愛知・長田・志真志）

終了しました

令和5年度も終わりに近づき、新しい年度がやってきます。いろいろと変化も多く慌ただしい時期ではございますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

さて、宜野湾市立博物館では、地域との共同企画展 ぎのわんの”^{あざ}字”展「新天地を求めて～^{ヤードツイ}屋取集落編 其之一～（上原・中原・赤道・愛知・長田・志真志）」を2024（令和6）年2月10日（土）から3月24日（日）まで開催しました。会期36日間で1,029名の方にご来館いただき、誠にありがとうございました。

この「ぎのわんの”字”展」は、市内の各字にスポットを当てて行い、自分たちの住む地域を見つめ直すきっかけ作りを目的とした企画展であり、2007（平成19）年度から始まって今回で16回目を迎えました。

今回取り上げる上原・中原・赤道・愛知・長田・志真志は、1700年代に宜野湾へ移り住んできた土族層「屋取」の集落であり、1939（昭和14）年に字として独立した比較的歴史が新しい集落です。そのような屋取集落の人々が歩んできた歴史や、屋取集落が移り住む前から生活をしていた集落（本集落）との違いなどを本企画展では紹介しました。また、現在の文化の継承という視点から、中原区・愛知区・長田区の青年会からエイサーの衣装をお借りして展示もしました。アンケートでは「屋取の歴史を細かく知らせる良い企画展です。」「長田区の今・過去が両方見られてよかった。」「エイサーの映像が良かった。」などのたくさんの感想をいただきました。そして、本企画展の開催のために資料提供して頂きましたみなさまにお礼申し上げます。



展示の様子



グレートでスよ、
こいつはア～



ゴゴゴゴ

To Be Continued



いろんなものが展示されているが、これじゃあ見どころが分からないんじゃないかなア…

次のページでは今回の展示の見どころをあたびーがクールに紹介するぜツ。



展示紹介①:「屋取」とは

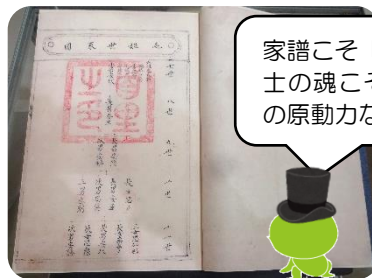


屋取とは、1700年代ごろから首里・那覇から移り住んでいった士族層を指します。

琉球王国時代には身分制度があり、人々は「士^{サムレイ}」と「農民（百姓）」に分かれていました。しかし1700年代から士の人口の増加による職不足などに伴い、士は新天地を求め地方へと移り住んでいきます。本展示会では、士がどのようにして屋取として宜野湾へ移り住んでいったのか、屋取集落と本集落でどのような違いがあるのかなどについて紹介しました。また、士であることを表す家譜（複製）も展示しました。



大正時代に書かれた宜野湾の屋取に関する資料



展示されている家譜（複製）

家譜こそ「士」の魂！
士の魂こそが新天地への
原動力なのだッ！！



展示の様子（ぎのわんの屋取について）

展示紹介②:屋取集落(上原・中原・赤道・愛知・長田・志真志)のあゆみ



士が宜野湾へと移り住み、形成した屋取集落（上原・中原・赤道・愛知・長田・志真志）について、入植から戦後の行政区改編（上原・中原・赤道⇒中原区 愛知⇒愛知区<19区> 長田・志真志⇒長田区）までのあゆみを、各字の特徴的なトピックとともに紹介しました。

今回は、当時のくらしが分かる赤道渡呂寒^{アカミチトツヌクワンバル}原屋取古集落跡から発掘された遺物の展示のほか、生活の中で使用されていたとされる農具を展示し、また戦後の行政区再編によって誕生した19区（現愛知区）の公民館で掲げていた看板なども展示しました。



赤道渡呂寒原屋取古集落跡から見つかった
小皿やお碗等



農業で使用していた農具



十九区（現愛知区）公民館の看板

長田の農業は宜野湾イチイイイ！！
（詳細は展示を見てください）

展示紹介③:自治会・青年会の活動と屋取集落の今



現在中原区、愛知区、長田区で行われている自治会の様子や、エイサーの衣装・活動の写真の展示から、屋取集落の人々が歩んできた歴史と文化の継承、現在の様子を紹介しました。エイサーの衣装は、各青年会の方々に着付けをお願いし、帯の結び方やタスキの掛け方など各地域の特徴が表れていました。また、自治会の活動では、イベントなどの活動写真から、世代間の交流や自治会のめざしている在り方を「全世代の居場所づくり」の視点から展示を行いました。



自治会コーナーの様子（中原区・愛知区・長田区）



エイサー衣装（中原区・愛知区・長田区）

この躍動感、ふるえるぞ
ハート！燃えつきる
ほどヒート！！

終了しました！

縄文時代の宜野湾



2023（令和5）年10月25日（水）～12月24日（日）の期間に開催された「縄文時代の宜野湾」では、市内の縄文時代遺跡から出土した資料を中心に展示を行いました。企画展では、縄文時代の特徴を知ってもらうため、前時代の旧石器時代と後の時代の弥生～平安時代並行期の資料も展示し、縄文時代の文化と比較できるようにしました。また、別府大学からの譲渡により、今回65年ぶりに地元に戻ってきた大山貝塚出土資料と、県立博物館・美術館が保管する大山貝塚資料も一堂に会して展示することができました！

今回の企画展には、52日間の会期中に1,661名もの方々に見学に来ていただきました。見学者の方から「湧水と遺跡、大山貝塚の事、多く知ることが出来ました。」「発掘された当時の生活を垣間見ることが感動しました。」などのご感想があり、好評のうちに企画展を終えることができたと思います。皆様、本当にありがとうございました！！



はっけ～ん★【文化課企画展】

ぎのわんに眠る遺跡たち

—発掘調査速報展 R1～R5—

文化課キャラクター ごーやん先生

無事に
終了しました。

展示の様子



喜友名下原第二遺跡遺

鉄製品の展示



見学の様子

2024（令和6）年1月13日（土）～1月28日（日）まで、文化課企画展「はっけ～ん★ ぎのわんに眠る遺跡たち —発掘調査速報展 R1～R5—」を開催し、令和元年から5年にかけて文化課がおこなってきた発掘調査の成果の一部を速報として報告しました。展示では16カ所の遺跡調査報告と、「喜友名下原（きゆうなしちゃばる）第二遺跡」から発掘された鉄製品や滑石製品など、珍しい遺物もご覧いただきました。行政調査の他に、学術調査として令和4年度から沖縄国際大学がおこなっている「普天間洞穴遺跡」の調査報告もおこないました。また、調査報告だけでなく、文化財とは？から始まり、発掘調査の方法や資料整理の流れなども紹介し、発掘調査に関しても理解を深めてもらいました。会期14日間で472名の方にご来館いただきました、誠にありがとうございました。

市史だより

がちまやあ

Gači-majaa



宜野湾の学校のはじまりは？

皆さんは、いつ頃から宜野湾に「学校」があったと思いますか。

琉球王国時代の学校として、首里の「国学」や久米村の「明倫堂」が知られていますが、宜野湾間切にも「村学校」がありました。1880（明治13）年2月の新制沖縄県の調査では、宜野湾に5つの「村学校」があり、教員が5人、生徒が28人いたとされています。「村学校」とは主に村役人の子弟が学ぶ学校で、読み書きのほか、儒教的な教育が行われていました。

1881（明治14）年、米沢藩（現在の山形県）のお殿様だった上杉茂憲が第2代沖縄県令（現在の県知事）になり、11月に宜野湾の「村学校」を訪れています。



第2代沖縄県令
上杉茂憲
(1844-1919)

ただし、茂憲の主な目的は、同年5月に普天間の神宮寺に開設されていた「中頭小学校」を訪問することでした。彼は「中頭小学校」の標準日本語による教育を激励し、従来の「村学校」の教育にたいしては否定的な態度をとっています。

その「中頭小学校」も翌年には廃校となり、現在の普天間飛行場の真ん中あたり、当時の字宜野湾の宜野湾馬場のそばに、新たに「宜野湾小学校」が開校します。

この学校が現在の宜野湾小学校の前身です。

その後、現在の普天間小学校や嘉数小学校の前身となる小学校がそれぞれ1906（明治39）年と1919（大正8）年に開校し、名称も「尋常小学校」「尋常高等小学校」「国民学校」と変化して、1945（昭和20）年の沖縄戦を迎えました。



お寺のお堂が最初の
学校だったクロ。



中頭小学校が設立された神宮寺（『写真集ぎのわん』）

宜野湾市立博物館、宜野湾市史が編集に取り組んできた「宜野湾市史」別冊『ぎのわん教育のあゆみ』がいよいよ刊行されます。今回は、この本で取り上げる話題のうち宜野湾の「学校のあゆみ」について、いくつかのエピソードをご紹介しますと思います。

宜野湾の学校の歴史
についてみていこう！



二重の楕円が村内3つの国民学校の位置
（『宜野湾市史 第5巻 資料編4 民俗』p247の図を元に作製）

最初の小学校
とくらべて
生徒さんが増え
たわね。



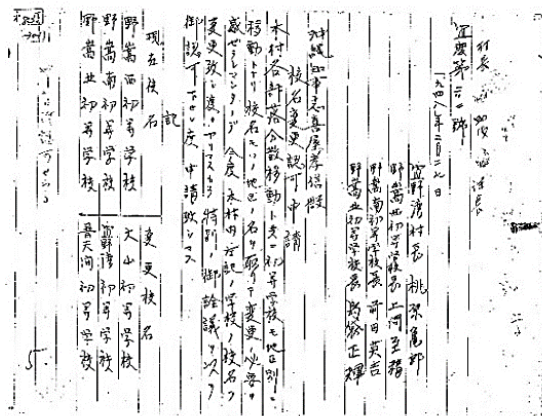
1888(明治21)年に開校した中頭高等小学校(『写真集ぎのわん』)
中頭高等小学校は現普天間高等学校敷地に設立され、現在の小学5年生と6年生がこの学校で学んでいました。

戦後の学校のはじまりは？

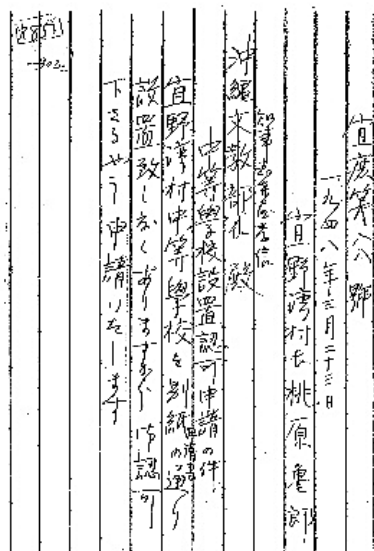
沖縄戦と米軍による占領の後、宜野湾の戦後の学校教育は1945（昭和20）年、収容所が置かれた野嵩で始まります（野嵩初等学校）。翌年、正式に設置が認可されたのが「野嵩北」「野嵩南」「野嵩西」という3つの「初等学校」でした。「野嵩北」は現在の普天間小学校の敷地に、「野嵩南」は野嵩部落の南側に、「野嵩西」は戦前の製糖工場の跡付近に開校しました。

その後、人々が収容所から元集落や他集落に移動した結果、「野嵩南」は愛知に、「野嵩西」は大山に移転しました。「野嵩北」の移転はなく、これら3つの「初等学校」はそれぞれ「普天間」「宜野湾」「大山」と名称を変更しました。

一方、「初等学校」の校名変更と同じ年の1948（昭和23）年に「中等学校」設置が認可されました。また、終戦の翌年に認可された「コザ高等学校野嵩分校」が、同年に野嵩高等学校として独立しました。これが後の普天間高等学校になりました。

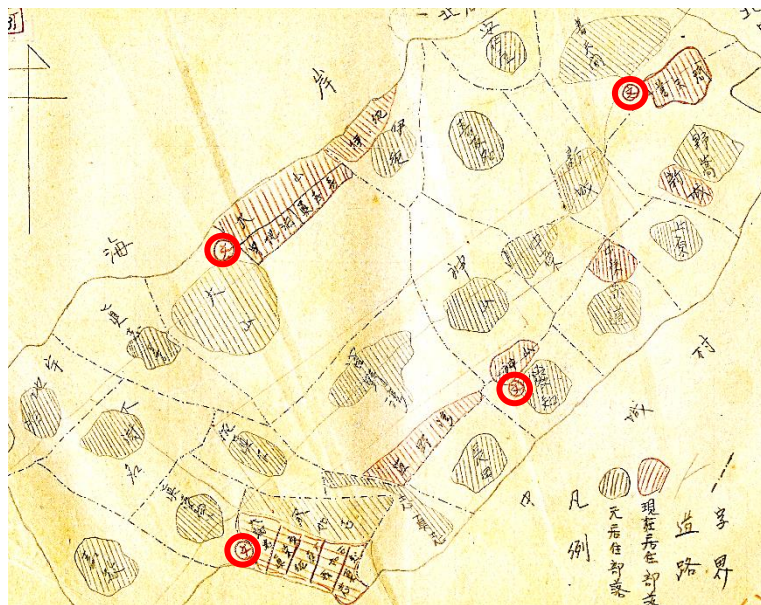


1948年「校名変更認可申請」
(自1946至1957 教育文化関係書)
宜野湾市立博物館所蔵



1948年「中等学校設置認可申請の件」
(自1946至1957 教育文化関係書)

ともに宜野湾市立博物館が
所蔵する行政文書です。



1949年「軍使用のため他人の土地を使用して居る者及び移動未許可の人員及其の居住部落名調の件」 ※○で囲まれた「文」は移転後の村内の学校の位置

このほか、米軍からコンセツトの提供を受けて開校した初等学校、米軍関係者の協力で校庭をブルドーザーで整地して開校した中等学校、基地内で最初の授業が始まった小学校（キングスクール）など、宜野湾の戦後の各学校のあゆみには、大変興味深いエピソードがいろいろとあります。

現在、市内には小学校10校、中学校5校、高等学校が4校あり、日々の教育活動を営んでいます。

第24期 わらば～体験じゅく

楽しみながら学べました♪



昨年の6月から始まり、今年の2月に終了した「わらば～体験じゅく」の活動を振り返ります。

市内の小学5・6年生を対象に抽選で選ばれた30人の児童が、主に宜野湾市の歴史や文化について、様々な体験をととして学びました。

第1回 6/17

開校式／
博物館見学と昔の道具体験
講師：博物館職員



これから約1年間、一緒に体験する仲間たちとの初顔合わせ☆どんな事が起こるのか、緊張もあるけど、楽しみです♪

第2回 7/22

宜野湾の海と
サンゴを知ろう☆
講師：佐藤 太一さん
(宜野湾マリン支援センター長)



宜野湾の海の中をVRで見る事ができたり、シュノーケリング体験やサンゴを使ってフォトフレームを作りました☆

第3回 8/19

漆喰シーサーをつくろう！
講師：比嘉 清順さん
(和仁屋しっくいシーサー振興会 会長)



作り方はほとんど一緒なのに、表情が全く違っていて、同じシーサーは一つもなく、個性いっぱいでした♪

第4回 10/21

田イモの植付けに挑戦！
講師：宮城 徳彦さん
(大山 田イモ農家)



宜野湾の特産品である「大山の田イモ」の植付けと収穫を体験！作物を育てる事の大変さや、大自然に触れました♪

第5回 11/11

喜友名のシーサーめぐり
講師：博物館職員



喜友名地区で、文化財の「喜友名の石獅子群」を見てまわりました。小雨が降る中、たくさん歩きました(*´∩｀*)

第6回 11/25

軽石と宜野湾の石の
ヒミツを探せ☆
講師：宇佐美 賢さん
(沖縄県立博物館・美術館)



軽石の事や、宜野湾市の台地となる石が、どんなものなのか実際に見て・触れて知ることができました★

第7回 12/9

漆の技法体験
講師：工芸士（琉球漆器）
のみなさん



沖縄の伝統工芸である琉球漆器について職人さんから学び、実際に技（沈金技法）を体験しました☆

第8回 1/20

ウシのお世話を
してみよう！
講師：宮城 邦治さん



その昔、宜野湾市でも行われていた「闘牛」。そのウシ達に、ご飯をあげたり、ブラッシングや散歩等をしてふれ合いました★

第9回 2/17

ゆし豆腐作り／閉校式
講師：博物館職員



昔ながらの製法でゆし豆腐作りを体験した後、閉校式を行いました★みんな「じの～ん通」になれたかな？

4月に市内在住の5・6年生になる皆さんの中で、興味のある方は、博物館から配布される申込用紙をぜひ持って来てね♪ 一緒に宜野湾市の歴史や文化について、楽しく学ぼう！



博物館市民講座を振り返って

令和5年度の市民講座は、新型コロナが5類に移行されたことで受講者の人数制限をやめて、通常開催に戻しました。室内講座10回、野外講座5回の合計15回の講座を無事終了し、どの講座も大変ご好評をいただきました。オンライン参加も含めて累計で407名の方々にご参加いただき、誠にありがとうございました！！

※第1回 6/18「大山の自然観察」

千木良 芳範(元市立博物館 館長)

大山のタイモ畑周辺の湿地を徒歩で観察



しながら、湧水の話や自然観察の特徴、動植物の生態について、解説を受けました。

※第2回 7/23「御願の道具と供えもの」

稲福 政斉(沖国大・沖大 非常勤講師)

沖縄の「シチグッチ(盆)」行事について、



意外に知らない供え物の意味、地域の特徴などを分かりやすく解説を受けました。

※第3回 8/6「デモンストレーション①一枚折りの技」

渡邊 慧(折り紙作家)

夏の企画展「シン・紙ってるね！一枚折りの動物たち」の関連事業で、

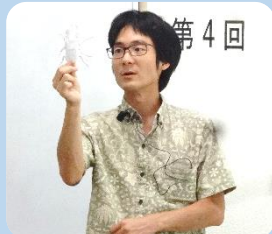


実際の折り紙作りの様子を見ながら解説を受けました。

※第4回 8/20「デモンストレーション②一枚折りの技」

渡邊 慧(折り紙作家)

第3回と同様に「シン・紙ってるね！一枚折りの動物たち」の関連事業で、



実際の折り紙作りの様子を見ながら解説を受けました。

※第5回 9/10「宜野湾の海の魅力」

佐藤 太一(宜野湾マリンセンター センター長)

宜野湾沖の様子や、そこに生息するサンゴ礁について、



海中の映像を見ながら生態系などについて解説を受けました。

※第6回 10/1「山田真山の足跡を訪ねて」

平敷 兼哉(市立博物館 館長)

市内にある山田真山のゆかりの地をバス



と徒歩で巡り、博物館収蔵庫の作品などについても解説を受けました。

※第7回 10/22「ぶらっと、博物館めぐり～あまわりパーク」

横尾 昌樹(うるま市教育委員会文化課 係長)

うるま市勝連にある「あまわりパーク」や、



勝連城跡を見学しながら、「阿麻和利」や勝連城の歴史について解説を受けました。

※第8回 10/29「紅型体験エコバッグづくり」

安里 和雄 他(安里紅型工房)

沖縄の伝統工芸「紅型」の歴史や技法を



学び、実際に指導を受けながらエコバッグに紅型で色付けの体験をしました。

※第9回 11/12「縄文時代前期の土器の話」

横尾 昌樹(うるま市教育委員会文化課 係長)

企画展「縄文時代の宜野湾」の関連講座



で、縄文時代前期の土器文化について、レプリカ土器などを用いて解説を受けました。

※第10回 11/26「『錫』で豆皿づくり」

上原 俊展(金細工まつ)

琉球王国時代から続く「錫(すず)」の伝統



を学び、実際に指導を受けながら豆皿づくりを体験しました。

※第11回 12/3「縄文時代後期の土器の話」

亀島 慎吾(沖縄県教育庁文化課 主任専門員)

企画展「縄文時代の宜野湾」の関連講座



で、縄文時代後期の土器文化について、変遷や特徴などの解説を受けました。

※第12回 12/17「宜野湾の遺跡めぐり」

長濱 健起(市立博物館 係長)

企画展「縄文時代の宜野湾」の関連講座



で、これまでに発掘された市内の遺跡をバスと徒歩で巡って解説を受けました。

※第13回 1/21「発掘調査から見えてくること」

伊藤 圭(市教育委員会文化課 文化財保護担当主査)

企画展「発掘調査速報展-R1～R5-」の関連講座で、これまでの市内の発掘調査や調査方法等について、



分かりやすく解説を受けました。

※第14回 1/28「民話の地を訪ねて」

平敷 兼哉(市立博物館 館長)

市内で民話や伝説が残る場所を、バスと



徒歩で巡りながら、紙芝居や写真、地図などを用いて解説を受けました。

※第15回 3/3「屋取の話」

鈴木 悠(那覇市歴史博物館 主任学芸員)

企画展「ぎのわんの字展～屋取集落編 其の一～」の関連講座で、



屋取の歴史や、事例、史料などの解説を受けました。

職場体験学習

▶ 職場体験や展示物の感想



今年度は、11月に宜野湾中学校から4名、1月に真志喜中学校から4名、それぞれ2日間の職場体験学習生を受け入れました。この体験を通して、働くことへの関心と博物館への理解を深めてもらいました。

▶ 宜野湾中学校：駐車場のペンキ塗りや「わらば～体験じゅく」の準備を手伝ってもらいました。

新垣 蓮紫さん ペンキ塗りや収蔵品の登録などの色々な作業ができてよかったです。小学校の頃、博物館はどのような働き方をしているのか疑問でしたが、職場体験を通して博物館の働き方がわかってよかったです。

新垣 蒼太さん 職場体験を通して学芸員の大変さが分かりました。博物館はその地域の歴史や地域のことを知れる大事な場所で、そこでちゃんと資料を保存したりしてくれる学芸員は必要なんだなと思いました。

照屋 心平さん 職場体験の中で一番楽しかったのは、博物館の資料を登録したことです。くんじょう室まで持って行くのが大変だったけど、いつもは見ることのできない物があったので楽しかったです。

仲村 瑞葉さん 博物館は意外と力仕事が多くて疲れましたがやりがいがあり、この博物館が職場で良かったと思います。体験を通して学んだことをこれからの学校生活に活かせるように頑張りたいです。

▶ 真志喜中学校：終了した企画展の片付けや嘉数小学校の出前授業を手伝ってもらいました。

友利 樹さん 常設展のイノシシの骨は、何千年も前の骨が残っていて凄いなと思いました。宜野湾の遺跡数は沖縄でも多く、宇地泊から真志喜の間の遺跡が多いこと、遺跡が貴重だということがわかりました。

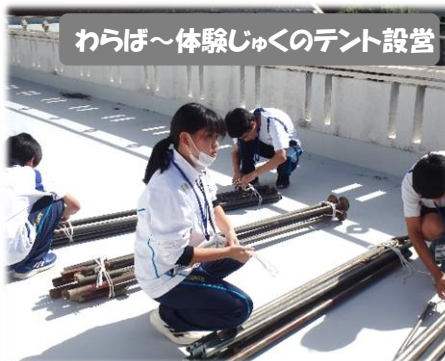
吉田 丈さん 常設展を見て、思った以上に詳しく書かれていて分かりやすかったです。軽便鉄道の台車が見た目が一番好きです。宜野湾で345カ所の遺跡が見つかったことがわかりました。

名渡山 璃音さん 宜野湾の地図もけいは地形が分かるので好きです。宇地泊は遺跡が多い、それは湧き水が多いため集落が集まっていたからだということがわかりました。

白鳥 喜一さん 常設展での見学で沖縄の時代がちょっと詳しくなりました。イノシシの骨の展示は、本物に触れることができるので良いです。宜野湾では遺跡が大量に見つかったことがわかりました。



駐車場ペンキ塗り



わらば～体験じゅくのテント設営



企画展示室見学

館長からのごあいさつ

令和5年度の博物館事業と市史編集事業が終わりました。当館主催の企画展へのご来館、講座、教室等へのご参加、誠にありがとうございました。新型コロナウイルスの影響も落ち着きつつあり、計画した事業、全てを実施することができ、館利用者も昨年度を上回り、25,387人（令和6年3月15日現在）となりました。

市立博物館は、令和6年6月1日に開館25周年を迎えます。令和6年度は開館25周年記念の企画展を予定しておりますので、ぜひ、博物館にいらしてください。お待ちしております！

宜野湾市立博物館 館長 平敷 兼哉

宜野湾市立博物館

〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL：870-9317 FAX：870-9316

■入館料：無料

■開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始（文化の日、慰霊の日）は開館

